

平成26年度
事業計画書
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

公益財団法人日本ユースリーダー協会

I. 3カ年計画(H24～26年度)の3年目

H24年(2012年)4月1日、公益財団法人として生まれ変わった当協会は、H24年度から26年度までの3カ年計画を策定して事業活動を開始した。

3カ年計画

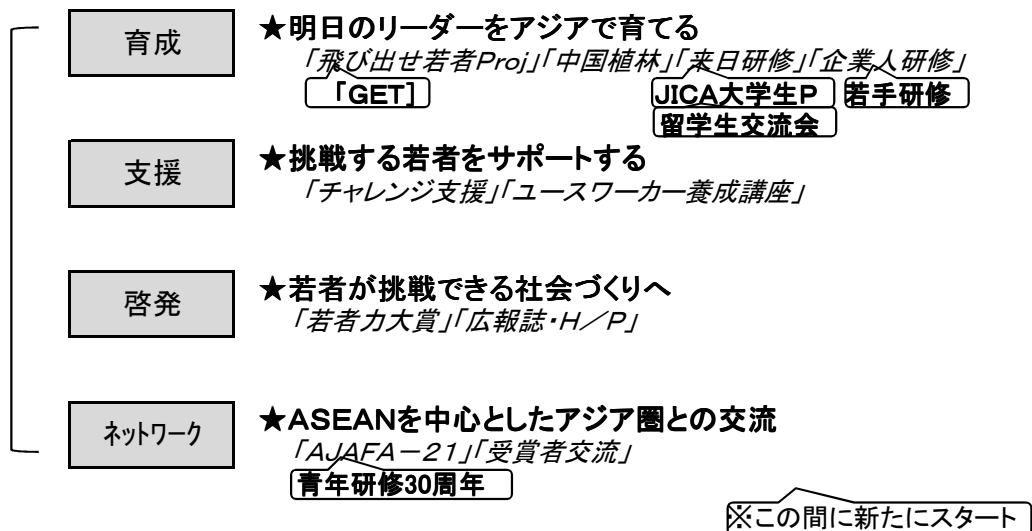
- ★ 基本方針 …… ◎ **アジアをフィールドに次代のユースリーダーを育成する**
これまでのアジア地域での活動経験とネットワークを活かして、若者自らが、次代のリーダーとして育ち、活躍できる機会を、アジアを舞台に提供(サポート)していく。

★ 合言葉は ……

飛び出せ若者！！

- ★ 3年後の目標 …… (1) 100名の若者が、アジアでのリーダー体験を経て、新たな行動を起こす。
(2) 500名の若者応援サポーターの輪を広げる。

- ★ 事業計画 …… ◎ 事業はすべて公益事業とし、4つの事業で構成する。



- ★ 組織体制 …… ◎ 委員会運営＝担当理事制による委員会執行体制

- ★ 財政基盤 …… ◎ 法人会員・個人会員の拡大 → 財団活動の「見える化」で理解促進
◎ 助成金・補助金事業の開拓

Ⅱ. 平成26年度 事業計画・基本方針

- ★ 基本方針 ……
- ① 4つの事業をH26年度も継続する。
→ <育成><支援><啓発><ネットワーク>の各事業推進
 - ② その中で最も力を入れるのは<育成>、とりわけ「ASEAN研修」
→ <育成事業>の「GET」と、<ネットワーク事業>の「AJAFA-21」
を連動させて、ASEANにおけるプレゼンスを高めていく
 - ③ 滞日留学生への具体的な支援策に取り組む。
→ 国内学生との交流・企業インターンシップ等の支援計画
 - ④ 「中国植林」は次の展開を視野に入れた調査・折衝を行う。
→ 緑化基金の助成終了想定・中国との研修交流の企画検討
 - ⑤ 事業活動は、6つの事業委員会を設置して推進する。
→ 理事の参加・運営幹事会での情報の共有を図る。
→ 事業のうち、海外研修時における危機管理対策に万全を期す。
 - ⑥ 財源確保は、会員の維持・拡大および助成金の獲得に取り組む。
→ 「GET」(外務省・文科省) 「受託事業」(JICA・文科省)
→ 「AJAFA-21」(外務省・JICA) 「留学生」(文科省)

★ 事業委員会 …… <ASEAN研修・交流> <中国研修> <受託研修>
<留学生支援> <企業人研修> <大賞選考> の6委員会

★ 会 議 ……

月	評議員会	理事会	運営幹事会	定例会議
4			○	毎週火曜日
5	○	○	○	〃
6			○	〃
7			○	〃
8				〃
9			○	〃
10			○	〃
11		○	○	〃
12			○	〃
1			○	〃
2			○	〃
3		○	○	〃

★運営幹事 井上理事長・中山副理事長・吉田常務・堀添常務・沖監事
野村理事・坂元理事・加藤事務局長・小笠原参与

★ 事業規模 ……

	H25(見通し)	H26(計画)
法人会員	72社	80社
個人会員	90名	150名
収入	111,815千円	121,632千円
支出	114,054千円	121,600千円
収支合計	▲2,239千円	32千円

Ⅲ. 平成26年度 事業計画

1. ユースリーダー育成事業

(1) 飛び出せ若者プロジェクト(ASEAN研修)

① 「グローバル・エデュケーション・ツアー (GET)」

当協会の中核事業として、日本の高校生・大学生を対象にした海外体験型研修事業をH24年度から実施中。
26年度は、ベトナム・インドネシア(予定)における研修プログラムを企画し、春・夏休みに7日間の日程で、計100名(目標)の派遣を実施する。

参加費は渡航費のみで設定。収支はマイナス事業ではあるが、会費からの補てんに加え、「(仮)GETファンド」の設置による資金募集、さらには公的資金(助成金)の獲得に向けた交渉活動も進めていく。
また、当協会活動のもっとも見えやすい事業としてこれをPRに活用し、広く学生や学校はもとより、社会(企業)に対する理解促進につなげていく。

(2) 中国植林(助成研修)

① 「日中青年植林プロジェクト」(日中緑化交流基金・助成事業)

H18年より日中緑化交流基金より受託を開始した助成事業。
中国での植林活動支援と、相互の青年交流を目的として活動。
26年度は、「①日中青年・内モンゴル(ダラ旗)砂漠化モデル林プロジェクト」
「②日中青年・内モンゴル(ハヤンノール市)生態防護林」
「③日中青年・安徽省安慶市造林事業」
「④日中青年・新疆ウイグル自治区莫勒切河流域生態緑化プロジェクト」
の4地域での植林活動に参画する。

緑化基金によるこの植林事業は、間もなく(数年後)終了が予想される。
26年度は、その後の中国との青年交流の架け橋づくりに向けて、その可能性を検討するための情報収集に取り組む。
なお、「GET/中国研修」は26年度は実施を見送る。

(3) 来日研修 (受託研修)

① 「JICA受託研修」……「来日研修」から「途上国派遣研修」へ

我が国のODA政策の一環として昭和59年(1984)にスタートした青年招へい研修事業。当協会は第1回目から毎年、ASEAN各国はじめ途上国からの研修生の受け入れをJICAから受託してきたが、25年度より、JICAは新たな事業企画として、「大学生フィールド・スタディ・プログラム」をスタート。
わが国のグローバル人材育成への取り組みの一環として、JICAが途上国で実施している開発支援プロジェクトの視察研修で、その実施を受託した。
26年度も継続して受託を目指す。(公開入札=企画コンペとなる。)

② 「滞日留学生支援」

日本で学んでいる留学生のための支援活動に取り組む。
対象はASEAN諸国からの留学生をコアとし、日本人学生との交流や、
留学生同士の交流の機会を提供する。

一方で、日本企業と留学生とのインターンシップへの機会提供についても、
当協会独自の仕組みづくりの検討を進める。

(4) 企業人研修

① 「異業種交流研修会」

当協会の法人会員をはじめ、企業の中堅幹部社員を対象として、
毎回、斯界を代表する講師を迎えて開催している研修会。
26年度も年間3回(6・10・2月)の開催を予定。

② 「若手研修会」

「異業種交流研修会」の弟版。企業の20代～30代の若手社員を対象に、
異業種の集まりという利点を生かして、相互の会社見学や懇親を通して、
見て、学ぶ研修会。
26年度も年間3回(4・8・12月)の開催を予定。

③ 「親子体験学習」

小中学生を対象にした体験学習を毎年実施。
主会場は新江の島水族館で、海の生き物たちとのふれあいや、水族館内の
バックヤード見学などを、親子(家族)と一緒に体験する催し。
26年度も水族館や、工場見学などの体験学習を行う予定。

2. ユースリーダー支援事業

(1) アジアユースチャレンジ支援

① 「アジアユースチャレンジ支援ファンド」の設立検討

日本及びアジア圏において社会的活動に取り組む若者への支援を、
幅広く社会に呼びかける仕組みづくりを検討する。
また資金的支援だけでなく、情報提供も重要な活動支援であり、
とりわけASEANにおける情報ネットワーク(Webサイト)づくりを検討する。

② 「サポーター・トレーニングプログラム」の開発

若者支援に取り組みたいシニア層に対し、支援のスキルを習得する
ボランティアプログラムの開発に着手する。

3. 社会啓発活動

(1) 顕彰制度(若者力大賞)

① 「第6回若者力大賞」の選考および表彰

26年度も「若者力大賞」の選考と表彰を実施する。
これまでは、若者が挑戦できる社会をつくるという当協会の活動理念に添って、社会のために人知れず努力している若者たちの顕彰を通して、まわりの大人たちに、若い人たちへの活動支援を呼びかけてきたが、25年度には学生層にも参加を呼びかけ、彼らに大きな感動とモチベーションを与えることができた。26年度も、この両輪を対象にそれぞれの意識啓発につなげるべく実施する。

また、受賞者のフォローや、授賞対象を海外にも広げるなど、初期の目的をより一層高めていくための新規企画を検討する。

(2) 広報活動

① 「広報誌: YOUTH LEADER」の発行

毎年2回(5月・11月)発行、上半期及び下半期の活動内容を報告。
26年度も2回発行。会員のみならず関係先や学生層にも配布を拡げていく。

② 「ホームページ」の随時コンテンツ更新

協会の情報公開と、広報誌と連動して活動ニュースを随時配信。
また各種イベントへの幅広い公募活動にも積極的に活用を図る。

4. ネットワーク事業

(1) ASEAN諸国との交流活動 (AJAFA-21)

① 「AJAFA-21」の交流活動への参加

日本で研修を受けたASEAN諸国の研修生の同窓会組織である「AJAFA-21」。毎年1回、「リーダーズ・フォーラム(RLF)」「代表者会議(ECM)」、そして年4回の「TV会議」を開催。26年度も継続して参加し、交流を深める。

② 「第27回代表者会議(Executive Council Meeting)」の東京開催

1988年に発足した「AJAFA-21」は毎年持ち回りで代表者会議を開催。その発足の契機となった日本の招へい事業が1984年にスタートして、今年で30年になることを記念して、東京で代表者会議を開催(2015年2月)する。開催にあたっては、外務省およびJICA等の協力を得て、ASEANと日本の若者をつなぐ意義のある国際イベントとしての成果を目指し、あわせて滞日留学生への協力参加を促す。(AJAFA.Jrの組織化)
会議では、グローバル人材育成に向けた「AJAFA-21」とのこれからの協働の在り方を模索していく。

■事業委員会■

委員会名	内容	担当
ASEAN研修委員会	①GET企画・交渉・実施	◎有澤
	②AJAFA-21「ECM東京2015」企画・実施	堀添 阪本 下村 家本 藤村 加藤 (小緑* 赤松* 丸山*)
中国研修委員会	①4地域の植林活動実施(緑化基金の助成)	◎堀添
	②中国ネットワークの新たな活用策の検討	吉田 久世 (小緑*)
受託研修委員会	①JICA大学生プログラムの継続受託	◎加藤
	②文科省(飛び立て留学生)との折衝	里吉 秀島 (赤松* 唐津*)
留学生支援委員会	①留学生と日本企業とのマッチング支援の検討	◎小池
	②国内学生と留学生との交流促進	板谷 佐藤 (中村* 唐津*)
企業人研修委員会	①3つの研修会の企画・実施運営	◎小笠原*
	②GETの企業内研修企画の検討	杉野 坂元 (鈴木*)
大賞選考委員会	①第6回授賞者選考・表彰の運営・実施	◎野村
	②授賞後のフォロー企画の検討	中尾 塩中 倉田 (丸山* 岡安*)

* = 理事以外

5. 組織運営全般

(1) 会議

- ① 「評議員会(5月)」「理事会(5月・11月・3月)」「運営幹事会(毎月)」開催

(2) 会員

- ① 「新規会員(法人・個人)勧誘」……特にサポーター向けイベント企画の検討
- ② 「会長サロン」継続開催……法人会員代表者の理解促進・協力依頼

(3) 事務局

- ① 「事務局(3名)」+「業務委託者(数名)」……現状維持の方向
- ② 「官庁届出」「文書管理」「会計」「情報提供」「内外コミュニケーション」等

◆H26年度 総事業予算		
◆事業費(1-4)	合計	97,600千円
◆運営費(5)	合計	24,000千円
◇H26年度	合計	121,600千円

平成26年度
収支予算書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

公益財団法人日本ユースリーダー協会

平成26年度 収支予算
(自;平成26年4月1日 至;平成27年3月31日)

(千円)

科目	金額			備考	参考
	26年度予算	25年度予算	増減		25年度見通し
I. 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
①基本財産利息収入	2	25	-23		2
②会費収入	38,330	33,140	5,190		30,185
正会員会費	37,580	32,640	4,940	正会員8社	29,640
個人会員会費	750	500	250		545
③事業収入	11,200	8,335	2,865		6,384
(1)ユースリーダー育成	10,100	7,675	2,425		6,114
「GET」	9,600	7,200	2,400	参加者増	5,432
「企業人」	500	475	25		635
「留学生」	0	0	0		47
(2)ユースリーダー支援	0	50	-50		0
(3)社会啓発	500	610	-110		270
「若者力大賞」	500	610	-110		270
「広報」	0	0	0		0
(4)ネットワーク	600	0	600		0
「AJAFA-21」	600	0	600	旧CAC預り金	0
④補助金等受託事業収入	71,800	51,100	20,700		75,000
(1)日中緑化交流基金(植林)	54,800	51,100	3,700		59,000
(2)JICA・スタディプログラム	17,000	0	17,000	新規受託(H25)	16,000
⑤寄付金収入	100	100	0		100
⑥雑収入	200	200	0		144
事業活動収入合計	121,632	92,900	28,732		111,815
2. 事業活動支出					
①事業費支出	27,600	16,880	10,720		15,453
(1)ユースリーダー育成	21,900	11,879	10,021		11,420
「GET」	19,200	10,879	8,321	参加者増	9,952
「企業人」	700	1,000	-300		661
「留学生」	2,000	0	2,000		807
(2)ユースリーダー支援	500	1,241	-741		150
(3)社会啓発	3,200	3,260	-60		2,919
「若者力大賞」	2,000	2,060	-60		1,950
「広報」	1,200	1,200	0		969
(4)ネットワーク	2,000	500	1,500		964
「AJAFA-21」	2,000	500	1,500	ECM2015開催	964
②補助金等受託事業支出	70,000	52,400	17,600		74,441
(1)日中緑化交流基金(植林)	56,000	52,400	3,600	4地域	60,631
(2)JICA・スタディプログラム	14,000	0	14,000	継続受注	13,810
③管理費支出	24,000	23,220	780		24,160
(1)人件費	12,000	12,000	0		11,760
(2)賃借料	3,600	3,600	0		4,080
(3)事務経費	8,400	7,620	780		8,320
事業活動支出合計	121,600	92,500	29,100		114,054
事業活動収支差額	32	400	-368		-2,239

平成26年度 収支予算
(自;平成26年4月1日 至;平成27年3月31日)

(千円)

科 目	金 額			備 考	参 考
	26年度予算	25年度予算	増 減		25年度見通し
Ⅱ. 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入	0	0	0		0
①投資活動収入	0	0	0		0
2. 投資活動支出	325	325			325
①退職給付引当資産取得支出	325	325			325
投資活動収支差額	-325	-325	0		-325
Ⅲ. 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入	0	5,000	-5,000		0
①短期借入金収入	0	5,000	-5,000		0
2. 財務活動支出	0	5,000	-5,000		0
①短期借入金返済支出	0	5,000	-5,000		0
財務活動収支差額	0	0	0		0
Ⅳ. 予備費支出	75	75	0		0
当期収支差額	-368	0	-368		-2,564
前期繰越収支差額	19,613	22,177	-2,564		22,177
次期繰越収支差額	19,245	22,177	-2,932		19,613

(注1) 収支予算書は「新公益法人会計基準」に則り作成している。

(注2) 借入金限度額 20,000,000円 (前年同額)

(注3) 債務負担額 0円